



一般社団法人 巨樹の会

明生リハビリテーション病院

Smile with your heart

スマイル

明生リハビリテーション病院季刊誌 Vol.21



Photo

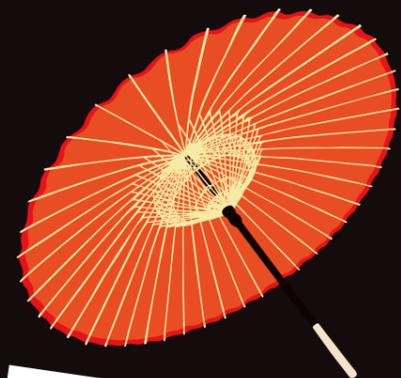
よさこい祭り
集合写真



Contents

- 2-3P ところざわ YOSAKOI 元気フェスタ
- 4P 五反田リハビリテーション病院 開院式
- 5P 講演会、野球部活動報告
- 6P 山田 達夫の健康コラム
- 7P りらいふ通信
- 8P 地域医療連携室かわら版

2015.Autumn



第5回 ところざわ

YOSAKOI

元気フェスタ



平成27年9月21日(土)第5回ところざわYOSAKOI元気フェスタに地元初のよさこいチームとなる、さやまがおか結心の皆さんと一緒に参加致しました。

今回の元気フェスタでは過去最大の32チームが参加しており狭山ヶ丘駅及びところざわ自動車学校さんの敷地で多彩な演武が行われました。

そのなかで、最後にはみんなで言う総踊りも行われ、32チーム他見学に来られた方々と一緒に踊りました。

今後も、このような地元のお祭りに参加し、地域の皆様とふれあうと共に地域の活性化に協力出来ていければと思います。

総務課 上野 慎也

第5回 関東カマチグループ 合同学術研究大会



8月29日に第5回関東カマチグループ合同学術研究大会へ参加してきました。当日は医師、看護部、リハ科、栄養科、事務部等各職種から48演題の研究発表及び下関リハビリテーション病院より小川浩一先生をお迎えしての特別講演が行われました。

開催場所は八千代市にあります八千代リハビリテーション学院。小雨が降る中7時前に病院を出発して向かいました。当日の私の役割はタイムキーパーでしたが各病院の発表を間近に聞くことができ大変貴重な機会となりました。当院からは4演題が発表されリハ科の渡邊太郎さんの発表がみごと金賞を受賞です。私は別会場にいた為聞くことができなかったのですがぜひ聞いてみたかったです。合同学術研究大会は今後年に2回開催されます。いつか自分も演壇に立てるよう日々の業務に全力投球していきたいと思ます！

3階病棟 看護師 小見野 智之



6月頃から準備を始めた、学術発表も8月29日に本番を迎え、その成果を発表して来ました。入念な準備を行なって、何度も何度も発表練習を行いましたが、本番で自分の番が近づくと頭の中が真っ白になり、マイクを持つ手は震え、嫌な汗も出てきました。いざ発表が始まると、数ヶ月の長い時間をかけてきた物も一瞬の内に終わりました。残念ながら、自分自身にとって満足行く結果ではありませんでしたが、発表するにあたって、支え助けて頂いた先輩方、同期のスタッフには本当に感謝しています。今回このような場を設けて頂き、大変貴重な体験・勉強になりました。本当にありがとうございました。

リハビリテーション科 理学療法士 石川 真基

特別講演会 に参加して



当院の整形外科疾患患者様の回診でも協力頂いております。埼玉石心会病院 整形外科 医師 伊東 秀治先生をお招きして「高齢者の下肢の骨折」をテーマにご講演頂きました。

当院は高齢の骨折患者様も多数入院しており、骨折の種類や術式等スライドを用いとても分かり易く説明して頂きました。この講演で得られた知識を今後の看護やリハビリに活かし、患者様が満足して退院できるように努めていきたいと思ます。

地域医療連携室室長
山本 小百合

野球部

秋季大会報告



皆さんこんにちは。明生リハビリテーション病院野球部の野口貴義です。我々野球部は、明生リハと所沢明生病院の合同チームで様々な部署から20名集まり業務後に地域のグラウンドをお借りして練習しています。春季大会は一回戦敗退と悔しい思いをしましたが、今回の秋季大会はベスト16まで勝ち進むことが出来ました。しかし、メンバー全員今回の結果に満足していません。来年は皆さま更に良い報告が出来るよう野球部一同練習に励んで参りますので応援よろしくをお願いします。

リハビリテーション科 理学療法士 野口 貴義

山田 達夫の健康コラム



一般社団法人 巨樹の会
五反田リハビリテーション病院 院長 **山田 達夫**
やまだ たつお

神経内科認定医
昭和23年生まれ 山梨県出身
昭和49年：東京医科歯科大学医学部卒業
平成 9年：福岡大学医学部神経内科学教室 教授
平成23年：一般社団法人 巨樹の会 関東統括本部長に就任
平成26年：関東統括特別顧問に就任
平成27年：五反田リハビリテーション病院院長に就任

今回はカマチグループ病院でスタートした「認知症委員会」での鈴木言語聴覚士の発表要項を掲載します。認知症リハビリテーションに大いに役立ててください。全3回掲載の今回は第1回目です。

ユマニチュードー認知症の新しいケアの技術ー

社会医療法人財団 池友会 新小文字病院 リハビリテーション科 言語聴覚士 鈴木 睦

看護や介護、リハビリスタッフの共通の悩み

急性期の救急病院、回復期のリハビリテーション病院、維持期の老人保健施設など、どこで働いても認知症の患者様に多く出会います。点滴を繰り返し抜いてしまう方。食事や更衣、リハビリを拒否される方。大声や暴言、暴力行為のある方。症状は様々ですが、BPSDと呼ばれる認知症の行動・心理症状に対して、看護や介護、リハビリのスタッフがどのように関わっていけば良いのかと悩んでいる姿を沢山見ました。カマチグループ病院のリハビリテーション局に発足した認知症委員会が、全リハビリスタッフを対象にした認知症に関するアンケートでも、「BPSDに対してどう対応したら良いのか知りたい」「効果的なリハビリの方法を知りたい」という意見が大変多くありました。

認知症の症状を悪化させる負の連鎖

認知症の症状が見られても治療が上手く進み、自宅や施設にスムーズに退院される患者様がいる中、以下のような負の連鎖により認知症の症状が悪化し、入院期間が延びてしまう方もいます。その様な患者様に出会うたびに、認知症の症状を悪化させない良いケアやリハビリがないかと以前から思っていました。

■入院後に認知症を悪化させる負の連鎖

- (1) 認知症の患者様が何かしらの病気になり入院となる。→
- (2) 病気のため体が思うように動かない。→
- (3) 病気や入院という急な環境の変化に対応できず混乱する。→
- (4) ベッドから起き上がるなどで転落のリスクが高くなる。→
- (5) 転落防止のため場合によっては手や足を抑制される。→
- (6) ストレスにより大声や暴言が強くなるようになる。→
- (7) それらの精神症状の軽減を目的に抗精神病薬が使われる。→
- (8) 薬の影響もあり症状は軽減したが傾眠が強くなる。→
- (9) ベッドに臥床している時間が長くなり廃用症候群を生じる。→
- (10) 入院期間が延びる。

認知症ケアの新技术「ユマニチュード」

2014年2月5日にNHKクローズアップ現代で放送された、「認知症の高齢者の暴言や暴力、徘徊などの「周辺症状」が劇的に改善するという「ユマニチュード」と呼ばれるフランス生まれの認知症ケア」という番組を見て感銘を受けました。番組ではユマニチュードを学んだスタッフの間で、認知症の方の表情が穏やかになり大声や暴言、暴力などの症状が落ち着く様子や意欲が出てくるなどの反応の変化がみられました。では、このBPSDが軽減するユマニチュードとはいったいどんな方法なのでしょう？

ユマニチュードとは？

ユマニチュード (Humanitude) はフランスのイヴ・ジネスト氏によって開発された認知症ケアの方法で、英語の「Human (人間的な)」「Attitude (態度)」の造語です。その名前の由来は、1930年代からパリに集まったフランス領植民地の黒人知識人たちが、自らの「黒人らしさ」を取り戻そうと、起こした文学運動である「ネグリチュード (Negritude)」にあり、「人間らしさを取りもどす」または「人間の尊厳の回復」という意味が込められています。ケアの方法は「見る」「話す」「触れる」「立つ」という4つが接し方の柱になっていて、全部で150もの技術があります。そして、認知症の方が一人の人間であるということ、その関わりによって伝えていくことで、ストレスなどに伴うBPSDを減らすことや、残された能力を最大限に引き出すなどの効果が期待できます。



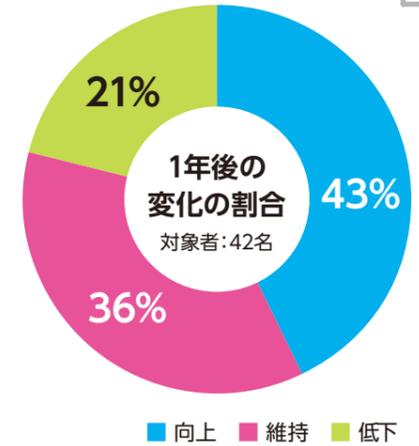
りらいふ通信

りらいふでは**芸術活動・運動療法**を通じて、脳機能だけでなく、身体機能にも着目して、**改善・予防**を図る取り組みをしています。その評価として、「MMSE (認知症テスト)」と「Berg Balance Scale (バランステスト)」という、認知面と身体機能面の2種類のテストを、ご利用頂いている全ての利用者様に定期的に行っており、りらいふに1年以上ご利用頂いた利用者様を対象に、初回から1年後の点数を比較しましたので、ここに報告させていただきます。

MMSE：認知症テスト (30点満点)

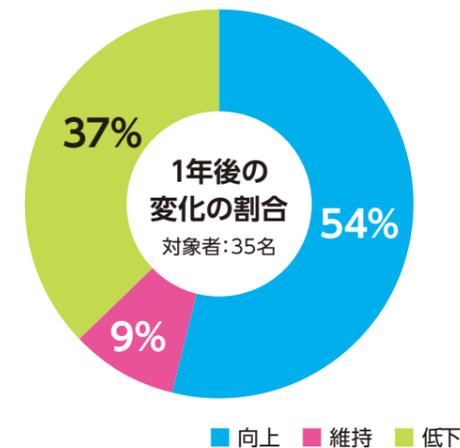
MMSEの点数が上がった利用者様は、**約4割!**
変化がなかった利用者様を合わせると
6割の利用者様に**維持・向上**が認められました。
(右図参照)

また、当施設の顧問であり、もの忘れ外来担当医でもある、山田達夫によると「1年経過して減点が2点までであれば、十分維持できている」との見解があり、それらを含めると、**約8割の利用者様が維持・向上**出来ているという結果が出ました。



Berg Balance Scale：バランステスト (56点満点)

Berg Balance Scaleの点数が上がった利用者様は、**約5割!** 変化がなかった利用者様を合わせると**約6割**の利用者様に**維持・向上**が認められました。(下図参照)



りらいふでは、芸術活動として、陶芸や手工芸などの**創作活動**、音楽療法や和太鼓などの**参加型の活動**と様々な芸術活動を用意しています。また、**運動療法**としては、音楽に合わせて身体を動かすため、身体機能だけでなく**脳の活性化**にも働きかけています。

ぜひ、作る喜び・楽しむ喜び・身体を動かす喜びをお手伝いさせていただきます!!

随時、**ご見学・ご体験**を受け付けています。お気軽にお問い合わせください。



デイケアサービス りらいふ

TEL 04-2928-7677

担当 **大木・鮫島**

地域医療連携室かわら版

入院手続き



ホームページのご案内

病院の詳しい内容は、ホームページでご覧いただけます。ぜひご参照くださいませ。グループ病院ホームページにもリンクできます。

明生リハビリテーション病院

検索

<http://www.meisei-reha.jp/>



一般社団法人 巨樹の会

明生リハビリテーション病院

〒359-1106 埼玉県所沢市東狭山ヶ丘4-2681-2

● [西武池袋線] 狭山ヶ丘駅東口下車 徒歩 15分

※当院の送迎バスもご利用できます。詳しくはホームページをご覧ください。

● タクシーをご利用の場合

西武池袋線小手指駅北口より約5分

お問い合わせ

TEL 04-2929-2220

FAX 04-2939-2136

交通のご案内

